

# 槐

芥川龍之介

青空文庫



槐ゑんじゆと云ふ樹の名前を覚えたのは「石の枕」と云ふ一いつ中節ちゆうぶしの淨じ  
やうるり瑠璃を聞いた時だつたであらう。僕は勿論一中節などを稽古す  
 るほど通つうじん人ではない。唯親父おやぢだのお袋おふくだのの稽古してゐるのを  
 聞き覚えたのである。その文句もんくは何なんでも觀世音菩薩くわんぜおんぼさつの「庭としに年  
 経へし槐ゑんじゆの梢ずゑ」に現なんれるとか何なんとか云ふのだつた。

「石の枕」はひと一つ家やの婆ばあさんが石の枕まくらに旅人を寝かせ、路用ろようの金  
 を奪ふ為ために上から綱つなに吊つつた大石おほいしを落おして旅人の命いのちを奪うばつてゐ  
 る、そこへ美しい稚児ちごが一人ひとり、一夜いちやの宿しゆくりを求めもとめに来きる。婆さん  
 はこの稚児ちごも石の枕まくらに寝かせ、やはり殺ころして金かねをとらうとする。  
 すると婆さんの真名娘まなむすめが私ひそかにこの稚児ちごに想おもひを寄せ、稚児ちごの

身代りになつて死んでしまふ、それから稚児はくわんぜおんぼさつ観世音菩薩と現れ、婆さんにいんぐわおうほう因果報を教へる、この婆さんの身を投げて死んだ池は未だにせんさうじ浅草寺の境内に「姥の池」となつて残つてゐる、——大体かう云ふじやうるり浄瑠璃である。僕は少時せうじくによし国芳の浮世絵うきよゑにこの話の書いたのを見てゐたから、「吉原八景よしはらはつけい」だの「黒髪」だのよりも「石の枕」に興味を感じてゐた。それからその又国芳の浮世絵はえもん観世音菩薩の衣紋などに西洋画風のべうほふ描法を応用してゐたのも覚えてゐる。

僕はその後ぶんじゆ槐の若木を見、そのどこか凶案的な枝葉をえだは如何にもくわんぜおんぼさつ観世音菩薩の出現などにふさはしいと思つたものである。が、四五年前まへに北京ペキンに遊び、のべつにゑんじゆ槐ばかり見ることになつたら、

いつか詩趣とも云ふべきものを感じないやうになつてしまつた。  
唯青い槐の実の莢さやだけは未だいまに風流だと思つてゐる。

北京ペキン

灰捨つる路は槐あんじゆさやの莢さやばかり

(大正十五年十月)



# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。



# 槐

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>